



平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年1月29日

東・福

上場会社名 株式会社三越伊勢丹ホールディングス 上場取引所  
 コード番号 3099 URL <http://www.imhds.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 大西 洋  
 問合せ先責任者 (役職名) 業務本部総務部コーポレートコミュニケーション担当 (氏名) 滝口 一雄 (TEL) 03-6205-6003  
 四半期報告書提出予定日 平成28年2月1日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第3四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	968,632	2.9	30,760	16.5	33,559	19.3	24,078	33.1
27年3月期第3四半期	941,296	△2.6	26,410	△11.1	28,135	△10.3	18,095	△8.1

(注) 包括利益 28年3月期第3四半期 16,430百万円(△28.2%) 27年3月期第3四半期 22,880百万円(△29.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	61.17	60.93
27年3月期第3四半期	45.85	45.69

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第3四半期	1,316,412	576,849	43.0
27年3月期	1,291,560	577,655	43.4

(参考) 自己資本 28年3月期第3四半期 565,597百万円 27年3月期 560,362百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	11.00	11.00
28年3月期	—	6.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	6.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,310,000	3.0	37,000	11.8	39,000	12.8	27,000	△9.7	68.59

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P5「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

28年3月期3Q	395,037,434株	27年3月期	394,958,394株
28年3月期3Q	3,462,940株	27年3月期	814,336株
28年3月期3Q	393,647,134株	27年3月期3Q	394,630,158株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続きは終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
4. 補足情報	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(平成27年4月1日～平成27年12月31日)におけるわが国経済は、政府による財政政策等の効果もあり緩やかな回復基調で推移しているものの、中国経済の急速な減速や株価の下落への懸念もあり、先行きについては依然として不透明な状況が続いております。また、雇用・所得環境は改善傾向にあるものの、個人消費につきましては本格的な回復に至っておりません。

このような状況下、当社グループは引き続き「常に上質であたらしいライフスタイルを創造し、お客さまの生活の中のさまざまなシーンでお役に立つことを通じて、お客さま一人ひとりにとっての生涯にわたるマイデパートメントストアとなり、高収益で成長し続ける世界唯一の小売サービス業グループ」の実現に向けて取り組んで参りました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高は968,632百万円(前年同四半期比2.9%増)、営業利益は30,760百万円(前年同四半期比16.5%増)、経常利益は33,559百万円(前年同四半期比19.3%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は24,078百万円(前年同四半期比33.1%増)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### ①百貨店業

百貨店業におきましては、事業の中核となる株式会社三越伊勢丹の基幹3店において、世界最高レベルの店舗を目指した取り組みを進めております。

伊勢丹新宿本店では、ICTの活用によるデジタルとファッションが融合するあたらしいライフスタイルの提案に取り組んで参りました。5月20日には「ISETAN×Make Cloudファンディングプログラム」をスタート、8月26日からの「彩り祭」では、デコデッドファッション受賞作品の「3D生地プリンター作品の販売」や「バーチャルミラー」などの体験型サービスを実施しました。

三越日本橋本店では、平成29年秋の全館リモデルオープンにむけ、伝統と最新のITを掛合せた新しい取り組みを進めております。また、文化の発信拠点となるために、日本橋の街と共同し来街者誘致のための取り組みを推進致しました。

三越銀座店では、銀座の街の魅力度・注目度の一層の高まりに対応し、国内のお客さまだけでなく、訪日外国人のお客さまにもご満足頂けるよう全館リモデルを行い、10月14日にオープン致しました。リモデルの柱として独自編集平場の拡充の取り組みを進めるとともに、9月2日には地下1階に「海外顧客サービスセンター」を新設するなど、販売サービスのグローバル化を進めました。また、平成28年1月27日には8階フロアに空港型市中免税店の「Japan Duty Free GINZA」が開業致しました。

首都圏以外の国内グループ百貨店におきましては、商業エリアとして高いポテンシャルを持つ、札幌、名古屋、福岡の地方大都市において各エリアの営業基盤の更なる強化を図っております。

小型店につきましては、複数のフォーマットでの出店を行って参りました。生活感度の高いお客さまに向けて雑貨や食品、ギフトを編集して展開する小型ショップ「エムアイプラザ」については、ショッピングセンターを中心に4月以降10店舗の新規出店を行い、12月末時点で26店舗体制となっております。新たな出店形態として三越伊勢丹の編集力を活かした中型のセレクトストアについては、4月には東京ミッドタウンに「イセタンサローネ」を、12月には丸の内仲通りに「イセタンサローネ メンズ」をオープン致しました。

海外の百貨店業については、長期的に経済成長が見込まれる中国・東南アジア地域において、グループ全体に貢献できる収益基盤の構築に向けた取り組みを推進致しました。

日本の優れたモノ・サービスを展開する新たな海外事業モデルとして、マレーシアの「クアラルンプール伊勢丹 LOT10店」のリモデル計画や、パリ日本文化会館へのアンテナショップの出店計画を推進するとともに、平成28年1月9日には、ヤマト運輸株式会社、株式会社ANA Cargoと、伊勢丹シンガポールのECサイト上で、越境ECサイト「ISETAN JAPAN DIRECT」をスタート、平成28年1月16日には三越伊勢丹グループ海外初の化粧品小型店を、ショッピングセンター上海大悦城にオープン致しました。

WEB事業につきましては、展開商品数、基幹3店と連動した企画数を増加し、EC特有のMDの強化を進めた結果、サイト訪問者数が順調に増加し、前年を上回る売上高となりました。

また、10月2日には、カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社と、包括的提携に向け基本合意書を締結し、マーケティング事業を推進する新会社の設立、平成28年春からの三越伊勢丹の国内関係子会社での「Tポイント」の利用等の取り組みを目指しております。

なお、このセグメントにおける売上高は893,510百万円(前年同四半期比3.2%増)、営業利益は20,403百万円(前年同

四半期比22.1%増)となりました。

#### ②クレジット・金融・友の会業

クレジット・金融・友の会業につきましては、株式会社エムアイカードが、カード顧客の拡大や外部利用拡大に向けた各種キャンペーンの展開、外部加盟店の拡大に努めました。

また、平成28年4月にカード会員特典制度をグループポイントに改定することに合わせて、日本航空株式会社、全日本空輸株式会社、株式会社ジェイティービーとポイント交換に関して合意致しました。日本航空株式会社とは、ポイント交換に留まらない包括的な業務提携に向けた「基本契約書」を締結致しました。

今後とも、お客さまにより便利にご利用いただけるよう取り組んで参ります。

なお、このセグメントにおける売上高は27,585百万円(前年同四半期比5.7%増)、営業利益は5,190百万円(前年同四半期比6.7%増)となりました。

#### ③小売・専門店業

小売・専門店業につきましては、株式会社三越伊勢丹フードサービスが、地域のお客さまのご期待に応える取り組みを推進し、5月15日に基幹店舗であるクイーンズ伊勢丹笹塚店をリモデルオープン致しました。

なお、このセグメントにおける売上高は43,212百万円(前年同四半期比2.8%減)、営業損失は447百万円(前年同四半期は営業損失165百万円)となりました。

#### ④不動産業

不動産業につきましては、レジデンス事業においてグループ保有物件のみならずグループ顧客にとって魅力ある商品・サービスの提供を図っていくことを目的に、4月1日より株式会社三越不動産を株式会社三越伊勢丹不動産に社名変更致しました。併せて、提携先である野村不動産株式会社との協業により、グループシナジーの見込める分野でのレジデンス開発や既存の枠組みを超えた更なる事業拡大の取り組みを進めております。

なお、このセグメントにおける売上高は33,911百万円(前年同四半期比5.6%増)、営業利益は4,754百万円(前年同四半期比6.3%減)となりました。

#### ⑤その他

その他の事業におきましては、情報処理サービス業の株式会社三越伊勢丹システム・ソリューションズ、物流業の株式会社三越伊勢丹ビジネス・サポート、人材サービス業の株式会社三越伊勢丹ヒューマン・ソリューションズ等が、グループ各社に対する営業支援体制の効率化促進や、外部営業強化に向けた取り組みを推進致しました。

また、中期的な収益拡大の為に、新規事業として飲食・ブライダル事業に取り組む為、10月14日には株式会社三越伊勢丹プラン・ドゥ・シーを、平成28年1月20日には株式会社三越伊勢丹トランジットを設立しました。併せて、ベンチャーキャピタル等と協働し新規事業創出・既存事業を強化拡大する為に、三越伊勢丹ホールディングス100%出資の投資子会社株式会社三越伊勢丹イノベーションズを平成28年1月20日に設立しました。

なお、このセグメントにおける売上高は56,868百万円(前年同四半期比3.6%増)、営業利益は642百万円(前年同四半期は営業損失30百万円)となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は1,316,412百万円となり、前連結会計年度末に比べ24,852百万円増加しました。これは主に、季節要因により、受取手形及び売掛金、並びに商品及び製品が増加したことなどによるものです。

負債合計では739,563百万円となり、前連結会計年度末から25,658百万円増加しました。これは主に、季節要因により、支払手形及び買掛金が増加したことなどによるものです。

また、純資産は576,849百万円となり、前連結会計年度末から805百万円減少しました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が増加した一方、自己株式の取得、為替換算調整勘定の減少などがあったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年3月期の通期業績予想につきましては、概ね計画通り推移しており、現時点におきましては平成27年11月9日公表の業績予想を変更していません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### 税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

#### (会計方針の変更)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、  
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を、第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の資本剰余金が1,841百万円減少しております。なお、当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	58,855	55,531
受取手形及び売掛金	126,024	141,562
有価証券	1,652	—
商品及び製品	58,765	65,460
仕掛品	122	106
原材料及び貯蔵品	835	800
その他	52,960	60,387
貸倒引当金	△2,959	△3,102
流動資産合計	296,258	320,746
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	176,633	175,797
土地	530,970	532,089
その他(純額)	23,491	24,300
有形固定資産合計	731,095	732,188
無形固定資産		
ソフトウェア	18,551	23,373
その他	37,101	36,688
無形固定資産合計	55,653	60,061
投資その他の資産		
投資有価証券	118,408	114,684
その他	90,322	88,922
貸倒引当金	△270	△264
投資その他の資産合計	208,461	203,342
固定資産合計	995,210	995,592
繰延資産		
社債発行費	91	74
繰延資産合計	91	74
資産合計	1,291,560	1,316,412



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	123,836	154,831
1年内償還予定の社債	12,000	—
短期借入金	40,301	15,809
コマーシャル・ペーパー	10,000	48,000
未払法人税等	4,658	8,477
商品券回収損引当金	24,897	23,787
引当金	16,579	12,313
その他	171,225	171,898
流動負債合計	403,498	435,117
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	78,300	74,000
繰延税金負債	150,823	150,229
退職給付に係る負債	39,967	39,949
引当金	45	45
持分法適用に伴う負債	4,067	3,968
その他	17,203	16,253
固定負債合計	310,407	304,445
負債合計	713,905	739,563
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,198	50,235
資本剰余金	325,171	323,366
利益剰余金	165,131	182,480
自己株式	△1,258	△6,278
株主資本合計	539,242	549,805
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,749	6,070
繰延ヘッジ損益	△1	△3
為替換算調整勘定	14,287	9,659
退職給付に係る調整累計額	83	65
その他の包括利益累計額合計	21,119	15,792
新株予約権	1,599	1,524
非支配株主持分	15,694	9,727
純資産合計	577,655	576,849
負債純資産合計	1,291,560	1,316,412

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	941,296	968,632
売上原価	677,625	695,485
売上総利益	263,671	273,146
販売費及び一般管理費	237,261	242,386
営業利益	26,410	30,760
営業外収益		
受取利息	695	614
受取配当金	613	573
持分法による投資利益	2,234	3,570
固定資産受贈益	1,107	1,910
その他	1,371	630
営業外収益合計	6,023	7,300
営業外費用		
支払利息	960	831
固定資産除却損	523	962
その他	2,813	2,707
営業外費用合計	4,297	4,501
経常利益	28,135	33,559
特別利益		
投資有価証券売却益	53	1,232
関係会社株式売却益	34	—
負ののれん発生益	316	—
特別利益合計	405	1,232
特別損失		
固定資産処分損	809	2,337
事業構造改善費用	284	272
事業撤退損	735	—
特別損失合計	1,830	2,609
税金等調整前四半期純利益	26,710	32,182
法人税等	8,696	8,712
四半期純利益	18,013	23,470
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△81	△608
親会社株主に帰属する四半期純利益	18,095	24,078

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
四半期純利益	18,013	23,470
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,981	154
繰延ヘッジ損益	7	△2
為替換算調整勘定	1,274	△3,542
退職給付に係る調整額	△37	△18
持分法適用会社に対する持分相当額	640	△3,630
その他の包括利益合計	4,866	△7,039
四半期包括利益	22,880	16,430
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	22,423	18,751
非支配株主に係る四半期包括利益	457	△2,321

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計 算書計上 額 (注)3
	百貨店業	クレジット ・金融 ・友の 会業	小売・専 門店業	不動産業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	865,223	13,065	33,575	19,808	931,673	9,623	941,296	—	941,296
セグメント間の内部 売上高又は振替高	992	13,036	10,865	12,315	37,209	45,246	82,456	△82,456	—
計	866,216	26,102	44,440	32,123	968,883	54,870	1,023,753	△82,456	941,296
セグメント利益又は損失 (△)	16,715	4,864	△165	5,072	26,486	△30	26,456	△46	26,410

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、製造・輸出入等・卸売業、物流業、人材サービス業、情報処理サービス業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△46百万円は、セグメント間未実現利益等であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため記載を省略しております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計 算書計上 額 (注)3
	百貨店業	クレジット ・金融 ・友の 会業	小売・専 門店業	不動産業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	892,372	14,403	32,212	18,463	957,452	11,180	968,632	—	968,632
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,138	13,181	10,999	15,447	40,767	45,687	86,455	△86,455	—
計	893,510	27,585	43,212	33,911	998,220	56,868	1,055,088	△86,455	968,632
セグメント利益又は損失 (△)	20,403	5,190	△447	4,754	29,900	642	30,543	217	30,760

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、製造・輸出入等・卸売業、物流業、人材サービス業、情報処理サービス業、旅行業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額217百万円は、セグメント間取引消去等であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## 4. 補足情報

## (1) 連結業績の概要

(単位：百万円)

項目	当第3四半期累計期間 (平成27年4月～12月)	前第3四半期累計期間 (平成26年4月～12月)	前年差	前年比
連結売上高	968,632	941,296	27,335	102.9%
連結売上総利益	273,146	263,671	9,475	103.6%
連結販売費及び一般管理費	242,386	237,261	5,124	102.2%
連結営業利益	30,760	26,410	4,350	116.5%
連結経常利益	33,559	28,135	5,423	119.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	24,078	18,095	5,982	133.1%

## (2) 三越伊勢丹個別の業績の概要

## ①業績の概要

(単位：百万円)

項目	当第3四半期累計期間 (平成27年4月～12月)	前第3四半期累計期間 (平成26年4月～12月)	前年差	前年比
売上高	512,266	486,907	25,359	105.2%
売上総利益	140,553	133,356	7,196	105.4%
販売費及び一般管理費	127,915	123,358	4,557	103.7%
営業利益	21,683	19,675	2,007	110.2%
経常利益	24,773	21,695	3,078	114.2%
四半期純利益	17,876	25,579	△ 7,702	69.9%

## ②店別売上高

(単位：百万円)

店舗名	当第3四半期累計期間 (平成27年4月～12月)	前第3四半期累計期間 (平成26年4月～12月)	前年差	前年比
伊勢丹新宿本店	203,674	189,583	14,091	107.4%
三越日本橋本店	128,966	125,987	2,978	102.4%
三越銀座店	64,373	53,812	10,560	119.6%
伊勢丹立川店	28,009	28,491	△ 482	98.3%
伊勢丹松戸店	14,543	14,865	△ 322	97.8%
伊勢丹浦和店	31,360	31,336	24	100.1%
伊勢丹相模原店	17,377	17,931	△ 553	96.9%
伊勢丹府中店	14,289	14,580	△ 291	98.0%
三越千葉店	9,671	10,317	△ 646	93.7%
計	512,266	486,907	25,359	105.2%

## (3) 国内グループ百貨店の売上高の状況

(単位：百万円)

会社名	当第3四半期累計期間 (平成27年4月～12月)	前第3四半期累計期間 (平成26年4月～12月)	前年差	前年比
札幌丸井三越	47,354	47,242	112	100.2%
函館丸井今井	6,359	6,676	△ 317	95.2%
仙台三越	26,729	26,390	338	101.3%
名古屋三越	53,301	52,044	1,256	102.4%
静岡伊勢丹	14,735	14,978	△ 242	98.4%
新潟三越伊勢丹	34,516	34,274	241	100.7%
広島三越	11,979	12,213	△ 234	98.1%
高松三越	17,710	17,212	497	102.9%
松山三越	11,304	11,522	△ 218	98.1%
岩田屋三越	88,686	84,457	4,229	105.0%